

応援部テク動作についての研究

A study of the basic action taken by Waseda Cheerleading Club

1K08B099-5

指導教員 主査 葛西順一 先生

澤村 立

副査 宮内孝知 先生

【目的】

私は応援部に2年間在籍した経験を基に応援部のテク動作（以下テク）について研究したい。テクとは応援部員が応援の陣頭指揮を執る際に必要不可欠な動作であり非常に多彩である。テクがしっかりと振られていることのみが良い応援の雰囲気を作り出す為の方策とは無論言えないが、テクがしっかりと成されていない場合は応援そのものの質に影響することも勿論ある。

テクにおいて最も基本的な動作である2拍動作はそれほど難しくなく、腕を前後左右に振り下ろすという単純なものであり応援部員でなくとも誰でも振ることが出来る為、アスリート性や潜在能力等を必要としない。従って本研究においては「如何に応援部員らしく綺麗に見せるか」というテーマに重点を置き、一定時間テクを振り続けることによってどの様な変化が生まれるか、またその変化をどの様に克服して少しでも綺麗に見せ続けることが出来るかを追究したい。そして本研究を現役応援部員へと引き継ぎ、テクを磨かせることによって更に人々を惹きつける応援を創り出させることが本研究の最終目標である。

【方法】

実験は早稲田大学記念会堂並びに学生会館地下音楽練習室にて本論文の筆者である私、現役応援部員から4年生幹部、3年生、2年生各1名ずつの計4名で動画撮影を行った。被験者にはまず準備体操をさせた後、最も基本的な動作である2拍動作を行わせ、次に早稲田大学を象徴する応援歌である「紺碧の空」を6番続けて振らせた後、小休憩を挟み「早稲田大学校歌」1番を振らせた。最後に応援曲「コンバットマーチ」における突き出し動作を3番まで繰り返し行わせた。紺碧の空以外は斜め30°からの撮影も行った。通常の応援を想定し、被験者全員に学生服を着用させた。また実験終了後に応援部リーダーOB3名に撮影開始直後と終了間際の動画におけるテクの変化について書面にて感想を求めた。

【結果】

実験では精神・肉体的疲労による若干のブレが見られた。特に「紺碧の空」6番では4番から6番にかけての部分、「コンバットマーチ」における突き出し動作では3番においてその変化は目立った。また経験の浅い下級生部員に比べ上級生部員の方が長く綺麗に振ることが出来ると判明した。テクの中には流れる様な動きが求められるものも存在するが、あくまで基本的な2拍動作においては要所をしっかりと止め、静と動を明確にさせることが大切であると分かった。テクを振る上で避けられない疲労に対しては個人の練習や経験が物を言うと感じた。OBへの意見調査では個々の主体性を重んじるとともにやはり応援部員のみが成し得る止めの動作と誰しもが成し得る流れ動作の違いをより明確にしていくべきとほぼ共通の見解が得られた。

【考察】

長時間テクを振り続ける為には一定の体力も必要となるがそれ以上に力の加減具合が重要となる。全ての動作に全力を注ぎ込み過ぎると肩から腕、最終的に指先まで乳酸の増加に伴う疲労が蓄積され綺麗に振り続けることは困難となる。静の部位ではきめ細やかに、動の部位では力強く振ることを心掛けたい。主に神宮球場にて行われる野球応援や稲門会・校友会に代表される渉外活動においては大勢の人々を前に1名で長く振り続けることが頻繁にある。そうした場面で疲労を理由にテクが乱れる様では応援部員として示し様が無い。ただがむしゃらに振るのではなく日々の演技機会を大切に、自らのテクについて客観的な視点も取り入れつつ静と動を明確にする為に常日頃から目標を持って練習を行い、自らの独自性を持たせつつ、各々が理想のテクを追究していくべきと考えた。またそれに伴って各自健康管理をしっかりと行い、練習から本番演技に至るまでありとあらゆる場面にベストコンディションで望むことが出来る様心掛けるべきと改めて感じた。